

YAMAHA Electone®

HS SERIES

取扱説明書

HS-8 HS-7 HS-6 HS-5 HS-4

このたびは、ヤマハエレクトーンHSシリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

エレクトーンHSシリーズは、つねに新しい音楽表現の境地を開拓してきたヤマハが、先進のエレクトロニクスと楽器づくりのノウハウを結集して完成させた、まさに画期的なエレクトーンです。美しくリアルな音色、幅広い表現機能、音楽の楽しみ方を格段に広げる各種プログラム機能など、現在、電子鍵盤楽器に求められている要素を最大限に搭載しました。その豊かな音楽性、多彩な表現力は、どなたにもご満足いただけることと存じます。

演奏にあたりましては、その幅広い機能を存分にひきだしていただくため、また、正しく安全にお取り扱いいただくため、必ず本書をよくお読みくださるよう、お願いいたします。なお、本書をお読みいただく際には、以下の点にご注意ください。

- 誤りやすい操作や、データを消去するおそれがある操作、故障と間違えやすい現象などについては、“注意”の項に記載していますので、必ずお読みください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書は万全を期して作成いたしましたか、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきのことがありましたら、ご連絡ください。
- お読みになった後は、本書を大切に保管してください。

ご使用上の注意



必ず、AC100Vのコンセントから電源を。

大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものが 있습니다。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。また、船舶などでは、DC(直流)電源を使用している場合がありますので、よくお確かめください。



内部に水が入った場合は。

誤って水などをかけ、エレクトーンの内部に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



電源プラグの扱いに注意。

ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。



電源スイッチを切り忘れないように。

電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ事故の原因になることがありますので、使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。



エレクトーンの内部には、絶対ふれないで。

エレクトーンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障などと思われる場合は、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

I. 基本機能

■機能関連チャート	2
-----------	---

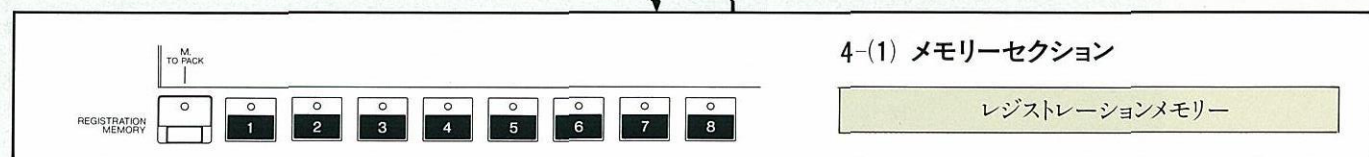
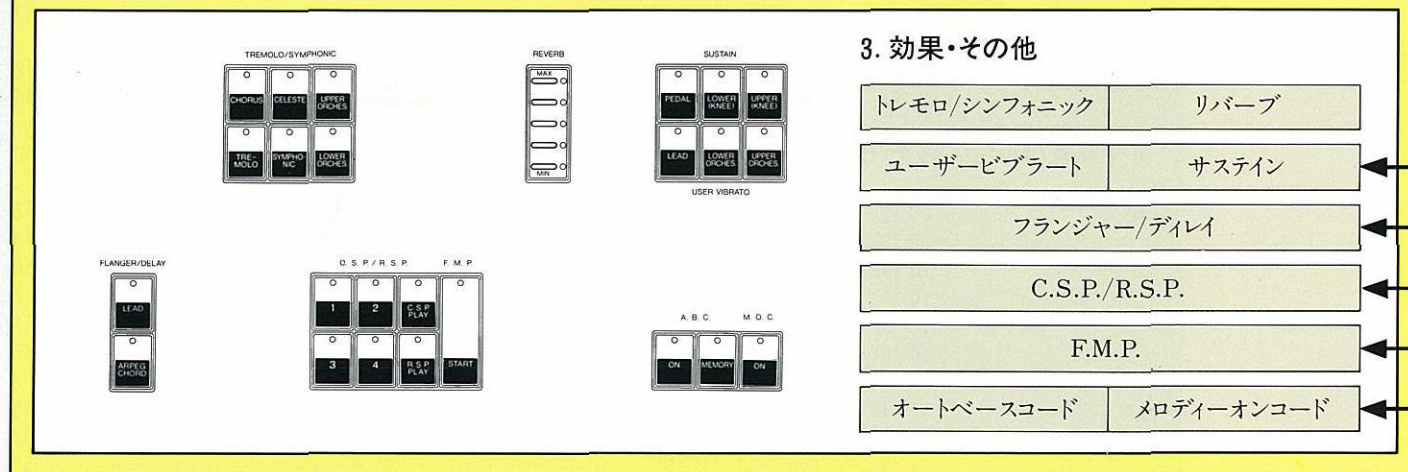
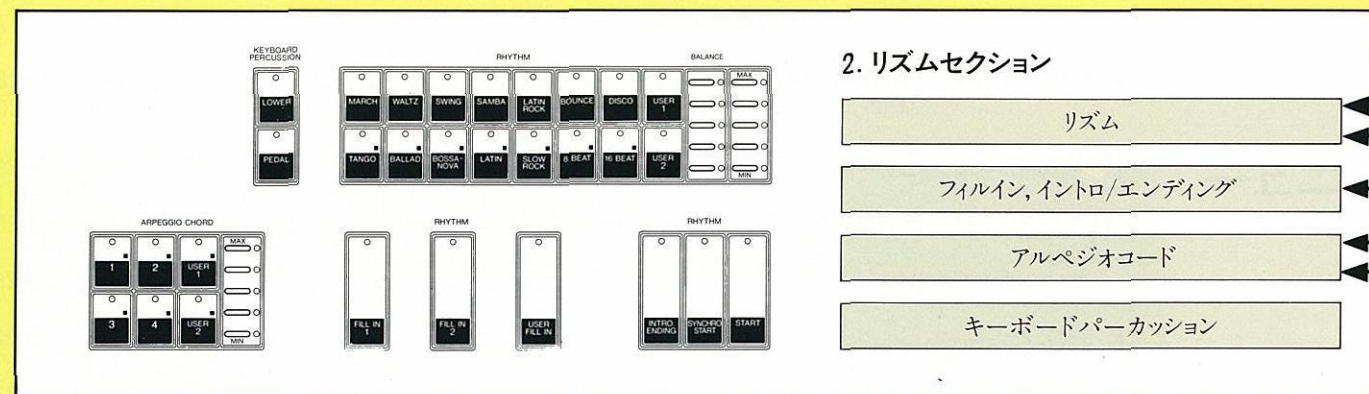
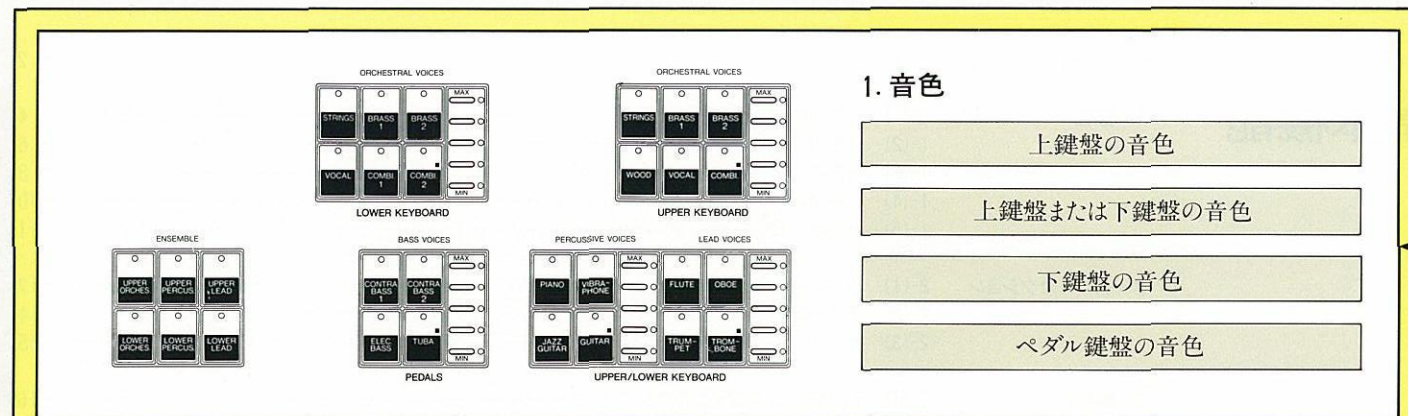
1 音色	1-(1) HS-8の音色	4
	1-(2) HS-7・HS-6の音色	6
	1-(3) HS-5の音色	8
	1-(4) HS-4の音色	10
	1-(5) 基本レジストレーション	11
2 リズムセクション	2-(1) リズム	12
	2-(2) アルペジオコード	14
	2-(3) キーボードパーカッション	15
3 効果	3-(1) トレモロ・シンフォニック	16
	3-(2) リバーブ	17
	その他の効果・機能	17
4 メモリーセクション	4-(1) レジストレーションメモリー	18
	4-(2) バック	20

II. マルチメニュー

1 レジストレーションメニュー	22
2 ボイスメニュー1 3 ボイスメニュー2 4 ボイスメニュー3	23
5 ボイスエディット	25
6 リズムメニュー	32
7 R.P.P./R.C.P.	7-(1) R.P.P. (リズムパターンプログラマー) 33 7-(2) R.C.P. (リズムコードプログラマー) 39
8 C.S.P./R.S.P.	8-(1) C.S.P. (コードシーケンスプログラマー) 42 8-(2) R.S.P. (リズムシーケンスプログラマー) 46
9 F.M.P. (フルミュージックプログラマー)	50
10	10-(1) ユーザービブラート 55 10-(2) サステイン 56 10-(3) トレモロスピード 56 10-(4) エキスターナル/MIDIコントロール 57 10-(5) タッチビブラート 57 10-(6) タッチトーン 57
11	11-(1) フットスイッチ 58 11-(2) リードスライド 58 11-(3) ピッチホイール (HS-8) 59 11-(4) モジュレーションホイール (HS-8) 60 11-(5) トランスポジション 61 11-(6) ピッチコントロール 61
12	12-(1) A.B.C. (オートベースコード) 62 12-(2) M.O.C. (メロディーオンコード) 64 12-(3) フランジャー/ディレイ (HS-8・HS-7・HS-6・HS-5) 65 12-(4) ボリュームファイン 67

■付属端子	68	■エキスターナル/MIDIコントロール	76
■MIDI対応機器との接続例	69	■HS MIDIコード一覧	77
■エレクトーン教室のご案内	70	■MIDIインプリメンテーションチャート	81
■末永く安全にお使いいただくために	71	■アフターサービスと保証	82
■故障だとお考えになる前に	72	■エレクトーン豆辞典	84
■仕様	74		

I. 基本機能 (パネルの機能)



*この図は、HSシリーズのシステム概要を示したものです。機能のなかには、図で示したようには関連づけられないものも含まれています。
*この概要図は、HS-5を例にして説明しています。ここに示した機能のいくつかを備えていない機種もあります。

Ⅱ. マルチメニュー

1	REGIST. MENU	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	VARIATION				
2	VOICE MENU 1	COMBI. 1	COMBI. 2	COMBI. 3	PIPE ORGAN 1	PIPE ORGAN 2	PIPE ORGAN 3	STRINGS 1	STRINGS 2	STRINGS 3	BRASS 1	BRASS 2	WOOD	ACCORDION	SYNTH STRING	SYNTH BRASS	COSMIC 1	COSMIC 2	COSMIC 3	VOCAL 1	VOCAL 2				
3	VOICE MENU 2	PIANO	ELEC. PIANO 1	ELEC. PIANO 2	HARPSICHORD	HARP	ACOUST. GUITAR	ELEC. GUITAR	JAZZ GUITAR	STEEL GUITAR	DISTOR. GUITAR	VIBRAPHONE	MARIMBA	CELESTA	BANJO	KOTO	STEEL DRUM	TIMPANI	CLAVI	CHIME	WAVE				
4	VOICE MENU 3	VIOLIN	CELLO	HORN	FLÜGEL HORN	PICCOLO	CLARINET	SAXOPHONE	BASSOON	PAN FLUTE	RECORDER	HARMONICA	WHISTLE	SYNTH LEAD	COMBI. BASS 1	COMBI. BASS 2	ELEC. BASS 1	ELEC. BASS 2	SYNTH BASS 1	SYNTH BASS 2	ORIGINAL VOICE				
5	VOICE EDIT	VOICE EDIT	1	OPERATOR 2	3	4	OUTPUT LEVEL	AR	ENVELOPE DIR	GENERATOR D1L	D2R	RR	FROM FM VOICE PACK	DATA	COARSE	1	USER VOICE 2	3	4	COPY					
6	RHYTHM MENU	MARCH	POLKA/COUNTRY	TANGO	WALTZ	SWING	BALLAD	BOSSANOVA	SAMBA	LATIN	SALSA	SLOW ROCK	8 BEAT 1	8 BEAT 2	REGGAE	BOUNCE	DISCO	16 BEAT 1	16 BEAT 2	VARIATION	ORIGINAL PATTERN				
7	R.P.P. R.C.P.	R.P.P.	R.C.P.	METRONOME	0	ACCENT 1	STEP WRITE 2	3	◀	▶	CLEAR	◀	▶	2/4	3/4	4/4	♪	♪	♪	♪	COPY				
8	C.S.P. R.S.P.	C.S.P.	R.S.P.	*	CLEAR	CHECK	♪	◀	▶	◀	▶	◀	▶	◀	▶	◀	▶	D.S.	REGIST.	DELETE	INSERT	RHYTHM AUTO VARI.			
9	F.M.P.	CLEAR	METRONOME	UPPER	LOWER	RECORD PEDAL	LEAD	REGIST.	*	UPPER	LOWER	PLAY PEDAL	LEAD	REGIST.	*	*	*	*	*	*	COPY/CONFIRM				
10	VIB., SUS. TREMOLO TOUCH	USER VIBRATO	LEAD DELAY	DEPTH	SPEED	U. ORC. DEPTH	L. ORC. DEPTH	SUSTAIN	UPPER	LOWER	PEDAL	TREMOLO SPEED	MIN 0	1	2	3	MAX 4	EXTERNAL/MIDI CONT.	TOUCH VIBRATO	LEAD	U. ORC.	L. ORC.	TOUCH TONE	UPPER & LOWER	PEDAL (MIDI)
11	FT. SW. TRANS. PITCH CONT.	RHYTHM STOP	ENDING	FILL IN 1	FOOT SWITCH	FILL IN 2	USER FILL IN	LEAD	GLIDE U. ORC.	L. ORC.	LEAD SLIDE	*	*	*	*	*	*	*	TRANSPOSITION	▼	▲	PITCH CONTROL	▼	▲	
12	A.B.C., M.O.C. FLNGR./DLY. VOL. FINE	SINGLE FINGER	FINGERED CHORD	A.B.C. CUSTOM A.B.C.	MEMORY LOWER	PEDAL	1	2	M.O.C. 3	KNEE CONTROL	FLANGER	DELAY	SPEED	FLANGER/DELAY	PARAMETER F.B.	DEP./BAL.	DATA	COARSE	VOLUME FINE	▼	▲	DISPLAY			

外部機器

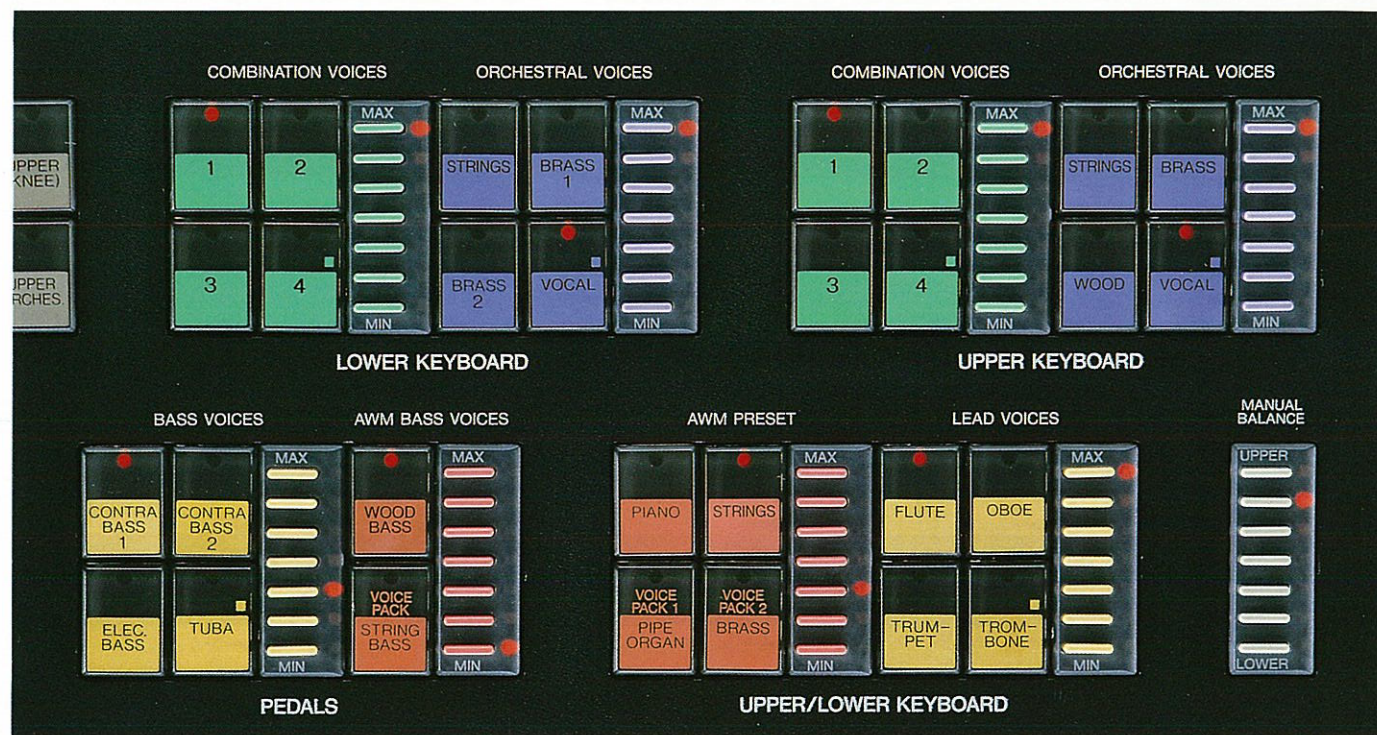
MIDI対応楽器/機器

ミュージックディスクレコーダー (MDR-2P)

1-(1) HS-8の音色

HS-8は、上鍵盤用の2つの音色群、上鍵盤と下鍵盤のどちらかで使う2つの音色群、下鍵盤用の2つの音色群、ペダル鍵盤用の2つの音色群を持っています。

HS-8



1 各音色群で、音色をひとつ選ぶ。

[上鍵盤用の音色群]

コンビネーションボイス：さまざまなオルガンサウンドが選べます。

オーケストラルボイス：オーケストラの主要な楽器音が選べます。

[上鍵盤または下鍵盤用の音色群]

AWMプリセット：AWM音源方式による、さまざまな楽器音が選べます。

リードボイス：フルートやオーボエなどのソロ楽器の音が選べます。この音色群の音は、すべてモノフォニック(単音)で得られます。

[下鍵盤用の音色群]

コンビネーションボイス：さまざまなオルガンサウンドが選べます。

オーケストラルボイス：オーケストラの主要な楽器音が選べます。

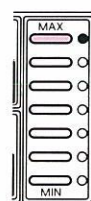
[ペダル鍵盤用の音色群]

ベースボイス：さまざまな低音楽器の音が選べます。

AWMベースボイス：AWM音源方式による、低音楽器の音が選べます。

2 各音色群で、ボリュームをセットする。

ボリュームは7段階にセットすることができます。一番上(MAX)のボタンを押すと、ボリュームは最大になり、一番下(MIN)のボタンを押すとボリュームはゼロになります。



ノート：マルチメニューのボリュームファイン機能を使えば、音量をさらに細かく設定することができます。(⇒67ページ)

ノート：ボリュームのボタンを2つ同時に押した場合、MAX側のひとつが優先されてONになります。

[同時発音数]

コンビネーションボイス/オーケストラルボイス：上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで、最大7音まで同時に発音します。

AWMプリセット：上鍵盤と下鍵盤をあわせて、最大15音まで同時に発音します。

リードボイス：同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

ベースボイス/AWMベースボイス：同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

[リードボイスの発音の優先について]

他の音色群とアンサンブルさせている場合：複数の鍵盤を同時に押さえると、一番高い1音だけが発音します。(高音優先)

リードボイスを上鍵盤または下鍵盤で単独使用している場合：複数の鍵盤を同時に押さえると、一番最後に押さえた1音だけが発音します。(後着優先)

[付点ボタン]

各音色群(AWMプリセットとAWMベースボイスを除く)には、それぞれ付点ボタン(四角い点の付いているボタン)があります。これらのボタンには、マルチメニューに用意されているボイスメニューの音色を自由に移すことができます。(⇒23ページ)

[ボイスエディット機能]

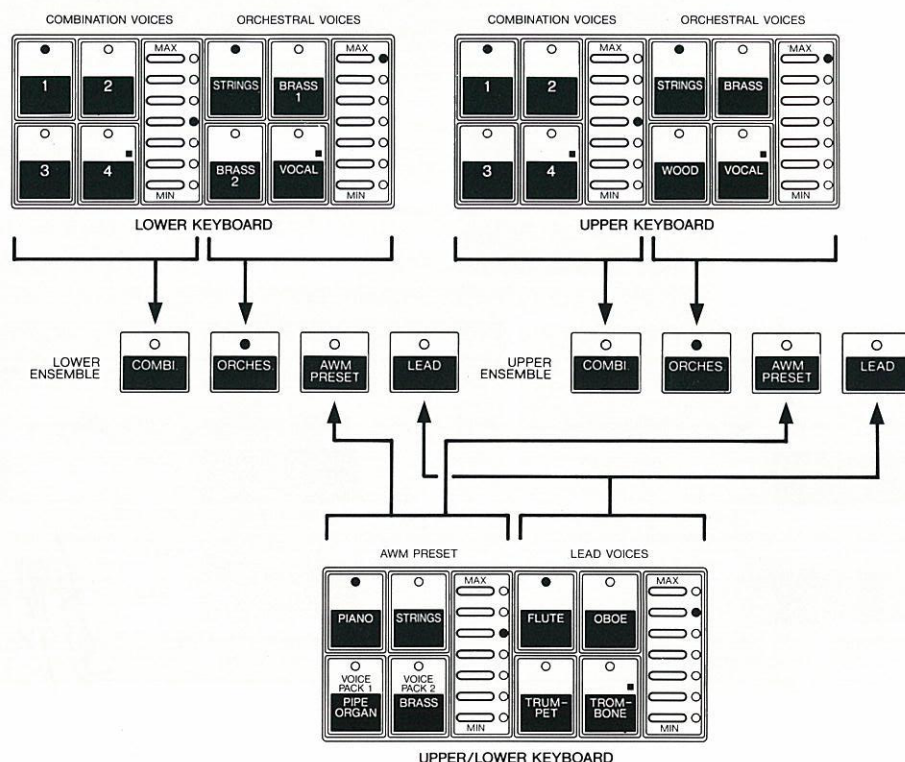
各音色群(AWMプリセットとAWMベースボイスを除く)のすべての音色は、マルチメニューのボイスエディット機能によって、そのデータを変更し、音色の感じを自由に変えることができます。(⇒25ページ)

[コンビネーションボイスの音色]

- 上鍵盤
- 1: オルガン8'
 - 2: フルート8'
 - 3: フルートカプラー
 - 4: フルオルガン
- 下鍵盤
- 1: オルガン8'
 - 2: フルート8'
 - 3: フルートカプラー
 - 4: オルガンカプラー



3 アンサンブルのボタンで、上鍵盤と下鍵盤でセットする音色群を選ぶ。



アンサンブルセクションでは、上鍵盤と下鍵盤の音色群のON/OFFを選択します。上の図を参考にして、音をだしたい音色群に対応するボタンを押し、ランプを点灯させてください。点灯していないボタンの音色は、ボリュームが最大になっても発音しません。

ノート: AWMプリセットは、アップパーとロワーのボタンを両方ともONにすることで、上鍵盤と下鍵盤から同時に発音させることができます。

ノート: リードボイスは、上鍵盤で使うか下鍵盤で使うかを、アンサンブルのボタンで選びます。同時に両方の鍵盤で発音させることはできません。

ノート: ペダル鍵盤用の音色群のON/OFFは、それぞれのボリュームでセットします。ベースボイスとAWMベースボイスのどちらか片方をOFFにしたい場合は、そのボリュームをMINにセットしてください。

4 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤をそれぞれ弾いてみましょう。

セットした音が、それぞれ発音します。他の音色に変えたり、アンサンブルセクションの組み合わせ方を変えて、いろいろなサウンドをつくりだしてみましょう。

ノート: マルチメニューのタッチトーンをONにすれば、上・下・ペダル鍵盤を弾くタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。(⇒57ページ)

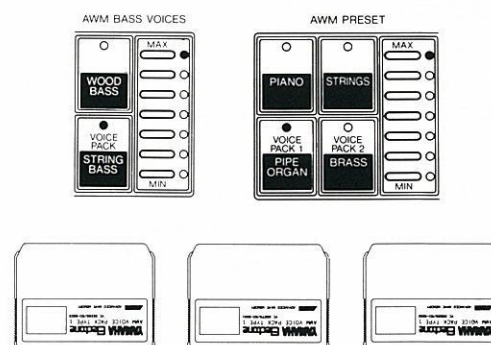
注意: マルチメニューのA.B.C.でシングルフィンガーまたはフィンガードコードを選び、パネルのA.B.C.のONボタンを点灯させている場合は、ペダル鍵盤を弾いてベース音を発音させることはできません。(⇒62ページ)

マニュアルバランス

上鍵盤の音量と下鍵盤の音量のバランスをセットすることができます。UPPER側にセットすると、上鍵盤の音量が下鍵盤の音量よりも大きくなり、LOWER側にセットすると、下鍵盤の音量が上鍵盤の音量よりも大きくなります。



[AWMボイスパック]



AWMプリセットのパイプオルガンとブラス、およびAWMベースボイスのストリングベースは、下鍵盤の左手前にあるパック挿入口に差し込まれているAWMボイスパック(ROMパック)の音色に対応しています。したがって、これらのボタンでは、AWMボイスパックを交換することで、別の音色が得られるようになります。パックの交換は、単に差し替えるだけでよく、ボタンを押すなどの操作は不要です。

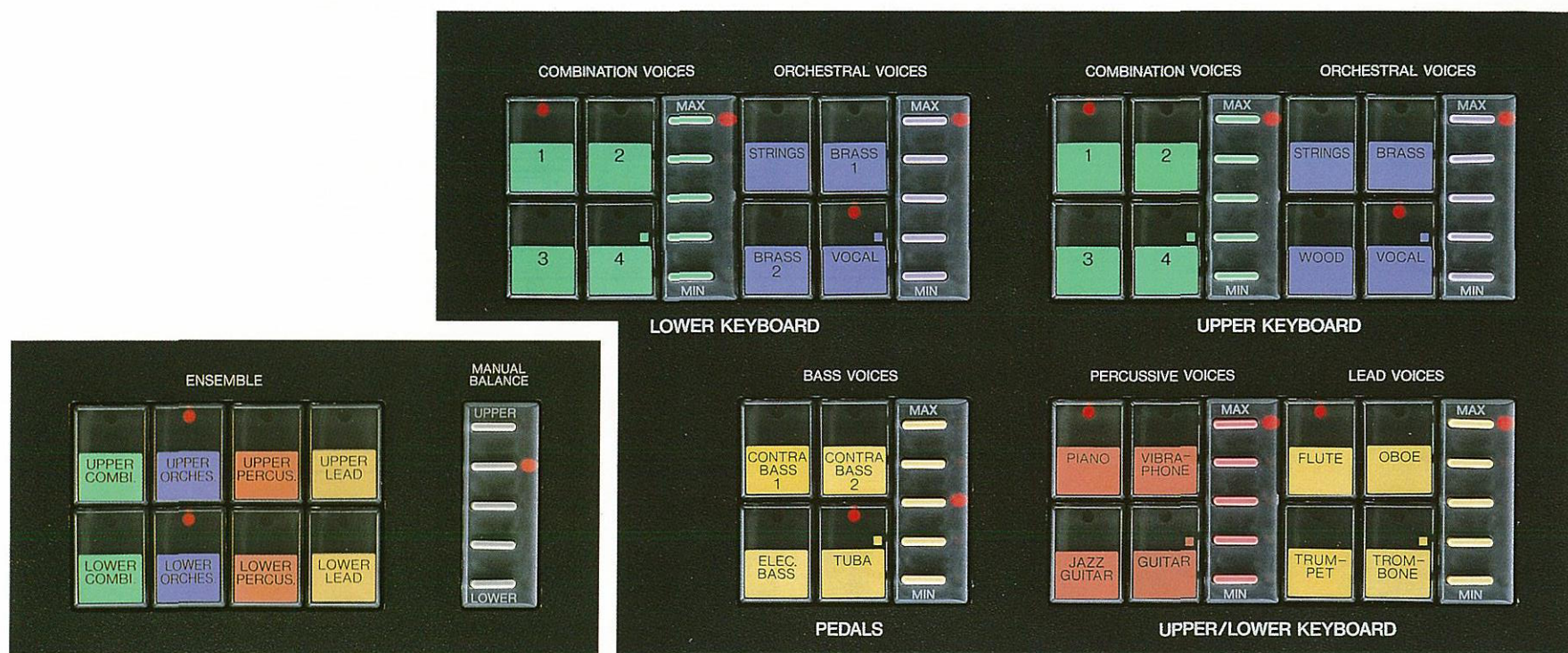
[FMボイスパック]

各音色群にある付点ボタンには、FMボイスパック(オプションのROMパック)の音色を移すこともできます。この場合、FMボイスパックの音色は、いったんボイスエディットのユーザーボイスに登録してから、付点ボタンに移します。(⇒31ページ)

1-(2) HS-7・HS-6の音色

HS-7・HS-6は、上鍵盤用の2つの音色群、上鍵盤と下鍵盤のどちらかで使う2つの音色群、下鍵盤用の2音色群(HS-6は1)、ペダル鍵盤用の1音色群を持っています。

HS-7/HS-6



(写真はHS-7)

1 各音色群で、音色をひとつ選ぶ。

[上鍵盤用の音色群]

コンビネーションボイス：さまざまなオルガンサウンドが選べます。

オーケストラルボイス：オーケストラの主要な楽器音が選べます。

[上鍵盤または下鍵盤用の音色群]

パーカッシブボイス：ピアノやビブラフォンなどの減衰系の楽器音が選べます。

リードボイス：フルートやオーボエなどのソロ楽器の音が選べます。この音色群の音は、すべてモノフォニック(単音)で得られます。

[下鍵盤用の音色群]

コンビネーションボイス(HS-7)：さまざまなオルガンサウンドが選べます。

オーケストラルボイス(HS-7)：オーケストラの主要な楽器音が選べます。

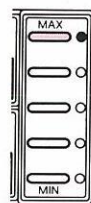
オーケストラルボイス(HS-6)：オーケストラの主要な楽器音、またはオルガンサウンドが選べます。

[ペダル鍵盤用の音色群]

ベースボイス：さまざまな低音楽器の音が選べます。

2 各音色群で、ボリュームをセットする。

ボリュームは5段階にセットすることができます。一番上(MAX)のボタンを押すと、ボリュームは最大になり、一番下(MIN)のボタンを押すとボリュームはゼロになります。



ノート：マルチメニューのボリュームファイン機能を使えば、音量をさらに細かく設定することができます。(➡67ページ)

ノート：ボリュームのボタンを2つ同時に押した場合は、MAX側のひとつが優先されてONになります。

[同時発音数]

コンビネーションボイス/オーケストラルボイス：上鍵盤と下鍵盤のそれぞれ、最大7音まで同時に発音します。

パーカッシブボイス：最大7音まで同時に発音します。

リードボイス：同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

ベースボイス：同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

[リードボイスの発音の優先について]

他の音色群とアンサンブルさせている場合：複数の鍵盤を同時に押さえると、一番高い1音だけが発音します。(高音優先)

リードボイスを上鍵盤または下鍵盤で単独使用している場合：複数の鍵盤を同時に押さえると、一番最後に押さえた1音だけが発音します。(後着優先)

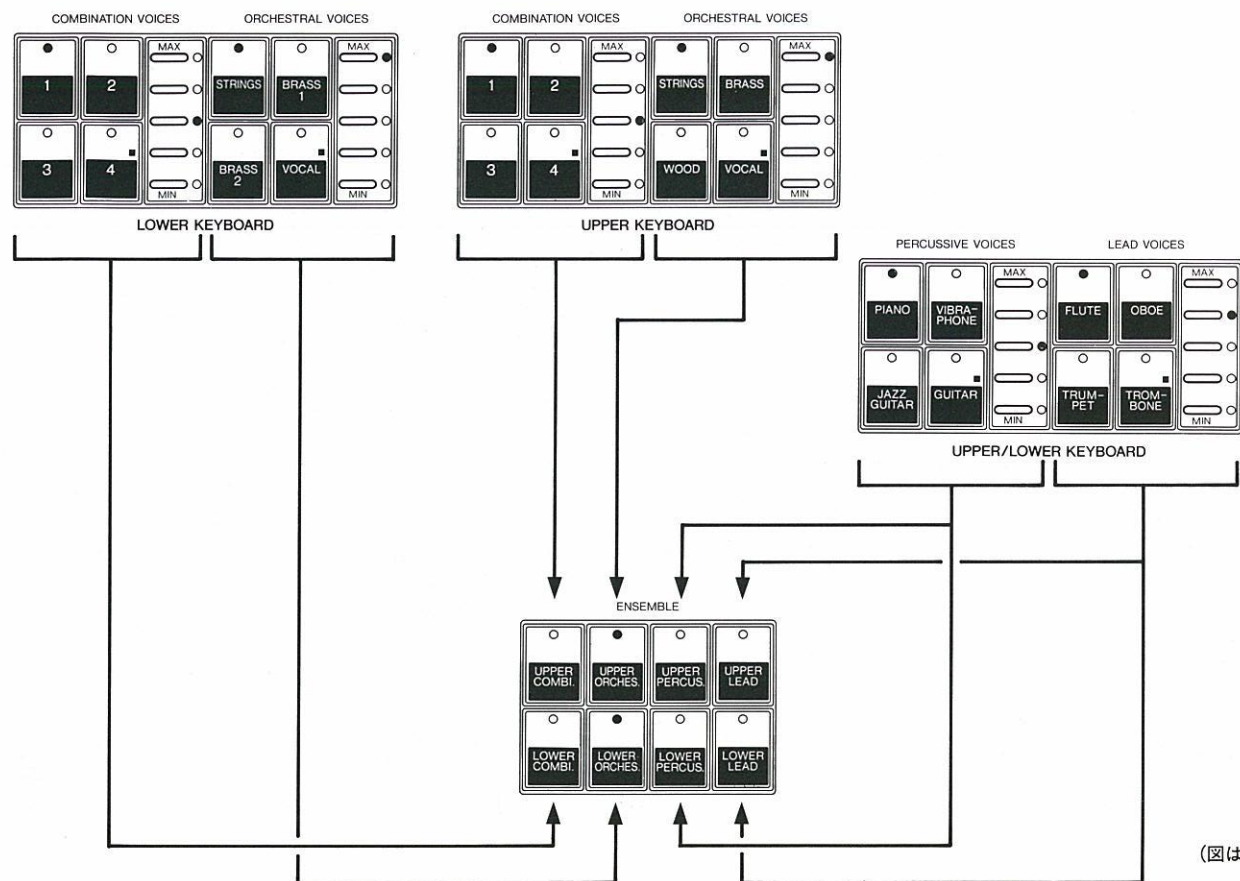
[付点ボタン]

各音色群には、それぞれ付点ボタン(四角い点の付いているボタン)があります。これらのボタンには、マルチメニューに用意されているボイスメニューの音色を自由に移すことができます。(➡23ページ)

[ボイスエディット機能]

各音色群のすべての音色は、マルチメニューのボイスエディット機能によって、そのデータを変更し、音色の感じを自由に変わることができます。(➡25ページ)

3 アンサンブルのボタンで、上鍵盤と下鍵盤でセットする音色群を選ぶ。



(図はHS-7)

アンサンブルセクションでは、上鍵盤と下鍵盤の音色群のON/OFFを選択します。上の図を参考にして、音をだしたい音色群に対応するボタンを押し、ランプを点灯させてください。点灯していないボタンの音色は、ボリュームが最大になっても発音しません。

ノート：パーカッションボイスとリードボイスは、上鍵盤で使うか下鍵盤で使うかを、アンサンブルのボタンで選びます。同時に両方の鍵盤で発音させることはできません。

4 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤をそれぞれ弾いてみましょう。

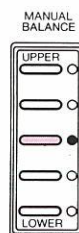
セットした音色が、それぞれ発音します。他の音色に変えたり、アンサンブルセクションの組み合わせ方を変えて、いろいろなサウンドをつくりだしてみましょう。

ノート：マルチメニューのタッチトーンをONにすれば、上・下鍵盤を弾くタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。(⇒57ページ)

注意：マルチメニューのA.B.C.でシングルフィンガーまたはフィンガードコードを選び、パネルのA.B.C.のONボタンを点灯させている場合は、ペダル鍵盤を弾いてベース音を発音させることはできません。(⇒62ページ)

マニュアルバランス

上鍵盤の音量と下鍵盤の音量のバランスをセットすることができます。UPPER側にセットすると、上鍵盤の音量が下鍵盤の音量よりも大きくなり、LOWER側にセットすると、下鍵盤の音量が上鍵盤の音量よりも大きくなります。



[コンビネーションボイスの音色]

- 上鍵盤 1:オルガン8'
2:フルート8'
3:フルートカブラー
4:フルオルガン
- 下鍵盤 1:オルガン8'
2:フルート8' (HS-7)、フルートカブラー (HS-6)
3(HS-7):フルートカブラー
4(HS-7):オルガンカブラー

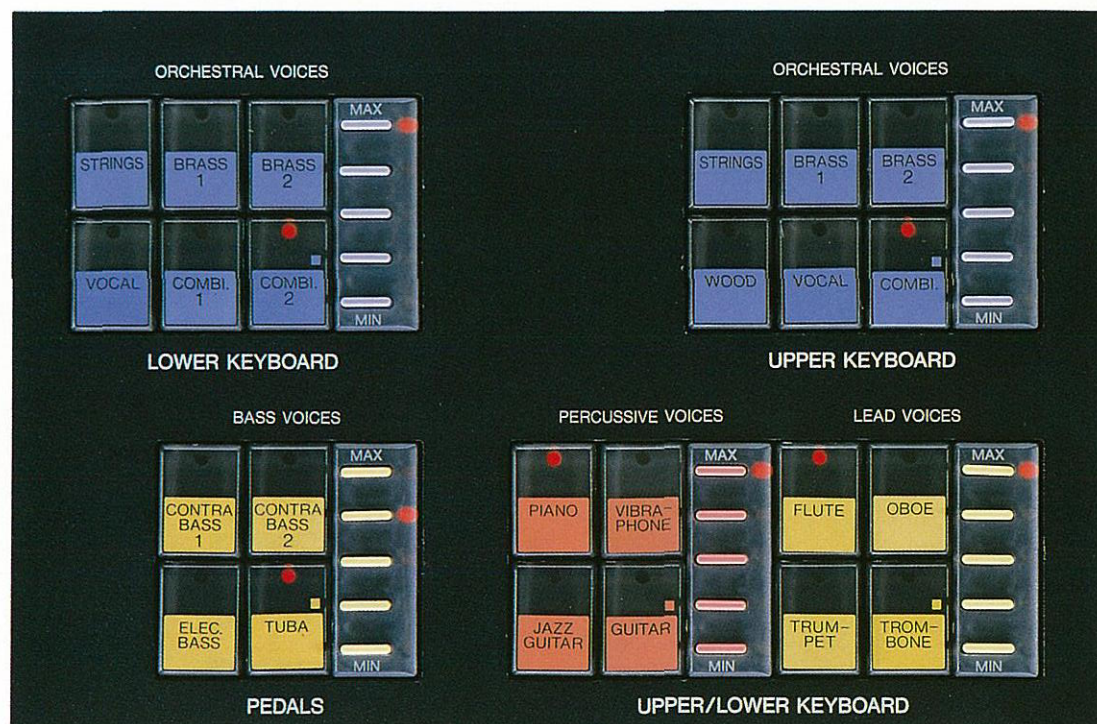
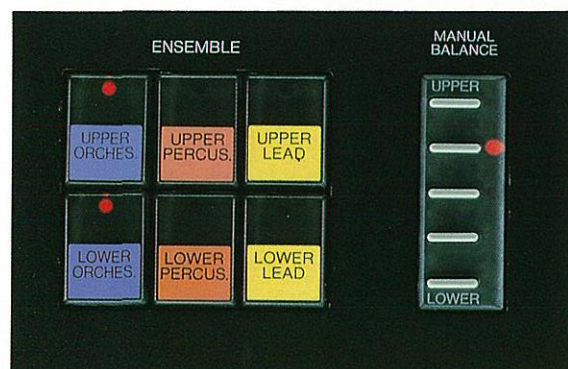
[FMボイスパック]

各音色群にある付点ボタンには、FMボイスパック (オプションのROMパック) の音色を移すこともできます。この場合、FMボイスパックの音色は、いったんボイスエディットのユーザーボイスに登録してから、付点ボタンに移します。(⇒31ページ)

1-(3) HS-5の音色

HS-5は、上鍵盤用の音色群、上鍵盤と下鍵盤のどちらかで使う2つの音色群、下鍵盤用の音色群、ペダル鍵盤用の音色群、合計5つの音色群を持っています。

HS-5



1 各音色群で、音色をひとつ選ぶ。

[上鍵盤用の音色群]

オーケストラルボイス:オーケストラの主要な楽器音、またはオルガンサウンドが選べます。

[上鍵盤または下鍵盤用の音色群]

パーカッシブボイス:ピアノやビブラフォンなどの減衰系の楽器音が選べます。

リードボイス:フルートやオーボエなどのソロ楽器の音が選べます。この音色群の音は、すべてモノフォニック(単音)で得られます。

[下鍵盤用の音色群]

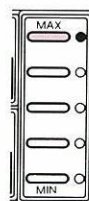
オーケストラルボイス:オーケストラの主要な楽器音、またはオルガンサウンドが選べます。

[ペダル鍵盤用の音色群]

ベースボイス:さまざまな低音楽器の音が選べます。

2 各音色群で、ボリュームをセットする。

ボリュームは5段階にセットすることができます。一番上(MAX)のボタンを押すと、ボリュームは最大になり、一番下(MIN)のボタンを押すとボリュームはゼロになります。



ノート:マルチメニューのボリュームファイン機能を使えば、音量をさらに細かく設定することができます。(⇒67ページ)

ノート:ボリュームのボタンを2つ同時に押した場合は、MAX側のひとつが優先されてONになります。

[同時発音数]

オーケストラルボイス:上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで、最大7音まで同時に発音します。

パーカッシブボイス:最大7音まで同時に発音します。

リードボイス:同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

ベースボイス:同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

[リードボイスの発音の優先について]

他の音色群とアンサンブルさせている場合:複数の鍵盤を同時に押さえると、一番高い1音だけが発音します。(高音優先)

リードボイスを上鍵盤または下鍵盤で単独使用している場合:複数の鍵盤を同時に押さえると、一番最後に押さえた1音だけが発音します。(後着優先)

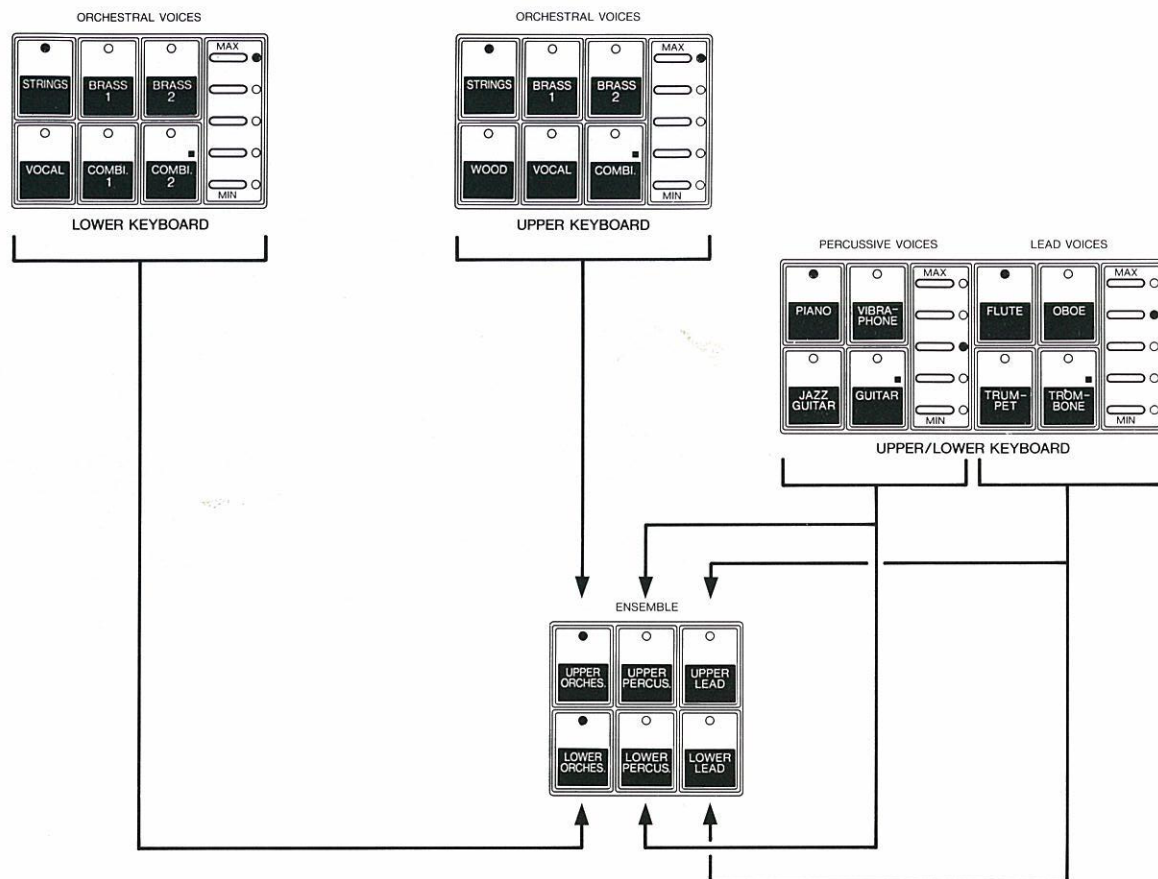
[付点ボタン]

各音色群には、それぞれ付点ボタン(四角い点の付いているボタン)があります。これらのボタンには、マルチメニューに用意されているボイスメニューの音色を自由に移すことができます。(⇒23ページ)

[ボイスエディット機能]

各音色群のすべての音色は、マルチメニューのボイスエディット機能によって、そのデータを変更し、音色の感じを自由に変えることができます。(⇒25ページ)

3 アンサンブルのボタンで、上鍵盤と下鍵盤でセットする音色群を選ぶ。



アンサンブルセクションでは、上鍵盤と下鍵盤の音色群のON/OFFを選択します。上の図を参考にして、音をだしたい音色群に対応するボタンを押し、ランプを点灯させてください。点灯していないボタンの音色は、ボリュームが最大になっても発音しません。

ノート：パーカッションボイスとリードボイスは、上鍵盤で使うか下鍵盤で使うかを、アンサンブルのボタンで選びます。同時に両方の鍵盤で発音させることはできません。

4 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤をそれぞれ弾いてみましょう。

セットした音色が、それぞれ発音します。他の音色に変えたり、アンサンブルセクションの組み合わせ方を変えて、いろいろなサウンドをつくりだしてみましょう。

ノート：マルチメニューのタッチトーンをONにすれば、上・下鍵盤を弾くタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。(⇒57ページ)

注意：マルチメニューのA.B.C.でシングルフィンガーまたはフィンガードコードを選び、パネルのA.B.C.のONボタンを点灯させている場合は、ペダル鍵盤を弾いてベース音を発音させることはできません。(⇒62ページ)

マニュアルバランス

上鍵盤の音量と下鍵盤の音量のバランスをセットすることができます。UPPER側にセットすると、上鍵盤の音量が下鍵盤の音量よりも大きくなり、LOWER側にセットすると、下鍵盤の音量が上鍵盤の音量よりも大きくなります。



[コンビネーションボイスの音色]

上鍵盤 オルガン8
下鍵盤 1:オルガン8
2:フルートカプラー

[FMボイスパック]

各音色群にある付点ボタンには、FMボイスパック(オプションのROMパック)の音色を移すこともできます。この場合、FMボイスパックの音色は、いったんボイスエディットのユーザーボイスに登録してから、付点ボタンに移します。(⇒31ページ)

1-(4) HS-4の音色

HS-4は、上鍵盤用の音色群、上鍵盤と下鍵盤のどちらかで使う音色群、下鍵盤用の音色群、ペダル鍵盤用の音色群、合計4つの音色群を持っています。

HS-4

1 各音色群で、音色をひとつ選ぶ。

[上鍵盤用の音色群]

オーケストラルボイス：オーケストラの主要な楽器音、またはオルガンサウンドが選べます。

[上鍵盤または下鍵盤用の音色群]

リードボイス：フルートやオーボエなどのソロ楽器の音が選べます。
この音色群の音は、すべてモノフォニック(単音)で得られます。

[下鍵盤用の音色群]

オーケストラルボイス：オーケストラの主要な楽器音、またはオルガンサウンドが選べます。

[ペダル鍵盤用の音色群]

ベースボイス：さまざまな低音楽器の音が選べます。

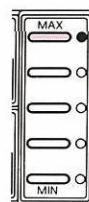
2 各音色群で、ボリュームをセットする。

ボリュームは5段階にセットすることができます。一番上(MAX)のボタンを押すと、ボリュームは最大になり、一番下(MIN)のボタンを押すとボリュームはゼロになります。

ノート：マルチメニューのボリュームファイン機能を使えば、音量をさらに細かく設定することができます。(⇒67ページ)

ノート：特定の音色群の音をだしたくない場合は、その音色群のボリュームをMINにセットしてください。

ノート：ボリュームのボタンを2つ同時に押した場合は、MAX側のひとつが優先されてONになります。



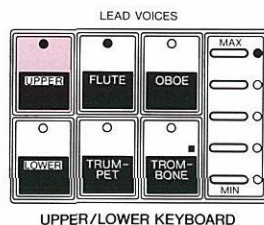
3 リードボイスを上鍵盤と下鍵盤のどちらで使うかを選ぶ。

リードボイスを使う場合は、上鍵盤から発音させるか、下鍵盤から発音させるかを選んでください。

アッパー：このボタンをONにすると、リードボイスは上鍵盤から発音するようになります。このとき、上鍵盤のオーケストラルボイスのボリュームがセットされていれば、上鍵盤で2つの音色をアンサンブルさせることができます。

ロワー：このボタンをONにすると、リードボイスは下鍵盤から発音するようになります。このとき、下鍵盤のオーケストラルボイスのボリュームがセットされていれば、下鍵盤で2つの音色をアンサンブルさせることができます。

ノート：リードボイスを発音させたくない場合は、アッパーとロワーのボタンを両方ともOFFにしてください。

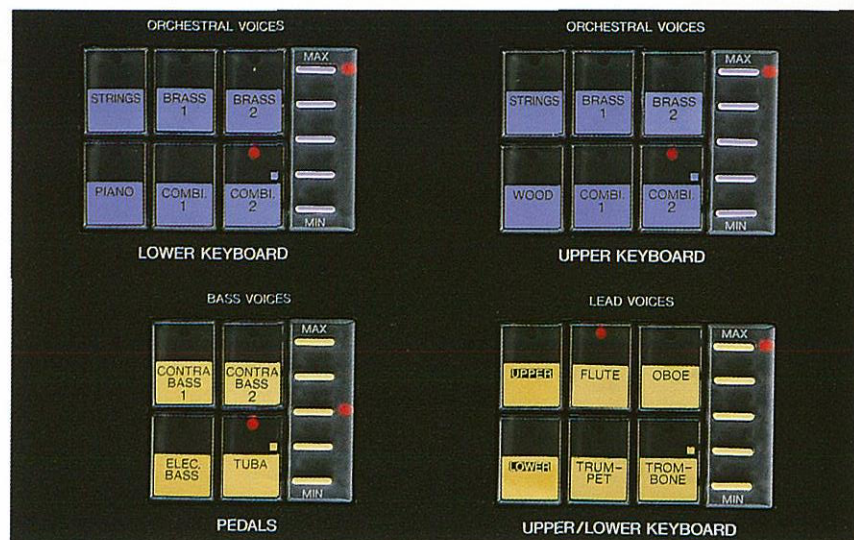


4 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤をそれぞれ弾いてみましょう。

セットした音色が、それぞれ発音します。他の音色に変えたり、音色の組み合わせ方を変えて、いろいろなサウンドをつくりだしてみましょう。

ノート：マルチメニューのタッチトーンをONにすれば、上・下鍵盤を弾くタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。(⇒57ページ)

注意：マルチメニューのA.B.C.でシングルフィンガーまたはフィンガードコードを選び、パネルのA.B.C.のONボタンを点灯させている場合は、ペダル鍵盤を弾いてベース音を発音させることはできません。(⇒62ページ)



[同時発音数]

オーケストラルボイス：上鍵盤と下鍵盤のそれぞれで、最大7音まで同時に発音します。

リードボイス：同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

ベースボイス：同時に1音のみ発音するモノフォニック音色です。

[リードボイスの発音の優先について]

複数の鍵盤を同時に押さえると、一番高い1音だけが発音します。(高音優先)

[付点ボタン]

各音色群には、それぞれ付点ボタン(四角い点の付いているボタン)があります。これらのボタンには、マルチメニューに用意されているボイスメニューの音色を自由に移すことができます。(⇒23ページ)

[ボイスエディット機能]

各音色群のすべての音色は、マルチメニューのボイスエディット機能によって、そのデータを変更し、音色の感じを自由に変えることができます。(⇒25ページ)

[コンビネーションボイスの音色]

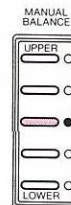
- 上鍵盤 1:オルガン8'
2:フルオルガン
下鍵盤 1:オルガン8'
2:フルートカプラー

[FMボイスパック]

各音色群にある付点ボタンには、FMボイスパック(オプションのROMパック)の音色を移すこともできます。この場合、FMボイスパックの音色は、いったんボイスエディットのユーザーボイスに登録してから、付点ボタンに移します。(⇒31ページ)

[マニュアルバランス]

上鍵盤の音量と下鍵盤の音量のバランスをセットすることができます。UPPER側にセットすると、上鍵盤の音量が下鍵盤の音量よりも大きくなり、LOWER側にセットすると、下鍵盤の音量が上鍵盤の音量よりも大きくなります。

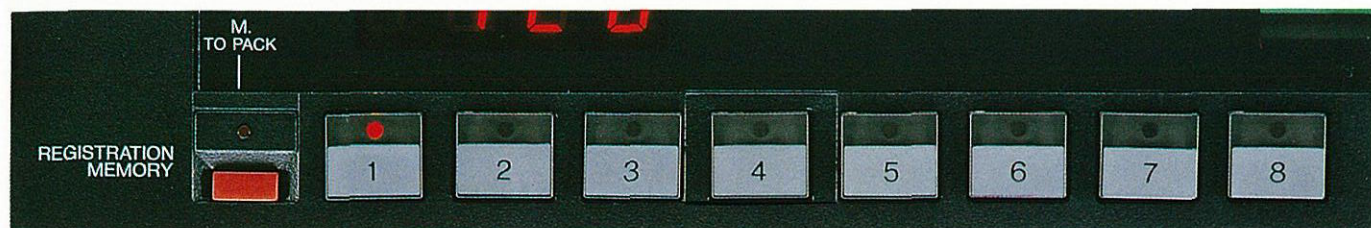


1-(5) 基本レジストレーション

エレクトーンの練習に適した5種類の基本的なレジストレーション(音色のセット)を、ボタンひとつで呼び出すことができます。

HS-8

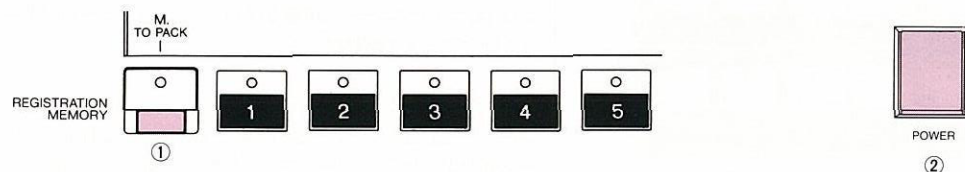
HS-7・HS-6
HS-5・HS-4



(写真はHS-8以外の機種)

- 1 いったんパワースイッチをOFFにする。それから、赤いメモリー [M.] ボタン①を押さえながら、パワースイッチ②をONにする。

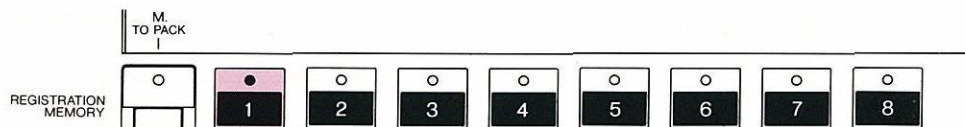
(図はHS-8以外の機種)



レジストレーションメモリーの赤いメモリーボタンを押しながら、電源をONにしてください。

注意: パワースイッチをONにした後、メモリー [M.] ボタンから指をすぐに離さず、そのまま約1~2秒間は押さえ続けてください。

- 2 数字ボタンの1番から5番までのボタンを、ひとつONにする。



押したボタンのランプが点灯し、基本レジストレーションのひとつが自動的にパネルにセットされます。

- 3 鍵盤を弾いてみましょう。



基本レジストレーションの音色が、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のそれぞれからでます。別の番号のボタンを押して、いろいろな音色をだしてみましょう。
なお、1~5のボタンでセットされる音色は次のとおりです。(パネルやボイスメニューの音色とは異なった音色も使われています)

[基本レジストレーションの音色]

	1	2	3	4	5
サウンド	ストリングアンサンブル	ブラスアンサンブル	フルート・ピアノアンサンブル	コズミックサウンド	シンセサウンド
上鍵盤	ストリングス	ブラス	フルート	コズミック	シンセブラス
下鍵盤	ストリングス	ブラス	ピアノ	コズミック	シンセブラス
ペダル鍵盤	コントラバス	コントラバス	コントラバス	コズミック	シンセベース

[再現したレジストレーションの変更]

1~5の数字のボタンを押して基本レジストレーションを呼び出すと、上・下鍵盤のオーケストラルボイスとベースボイスの付点ボタン(四角い点の付いているボタン)が点灯し、それぞれのボリュームが自動的にセットされます。これらのセッティングは、必要に応じて変更することができます。

- 付点ボタン以外の音色ボタンをONにすれば、音色が変わります。
- 他の音色群のボリュームを上げ、アンサンブルのボタンをONにすれば、他の音色とアンサンブルさせることができます。
- ボリュームの変更もできます。

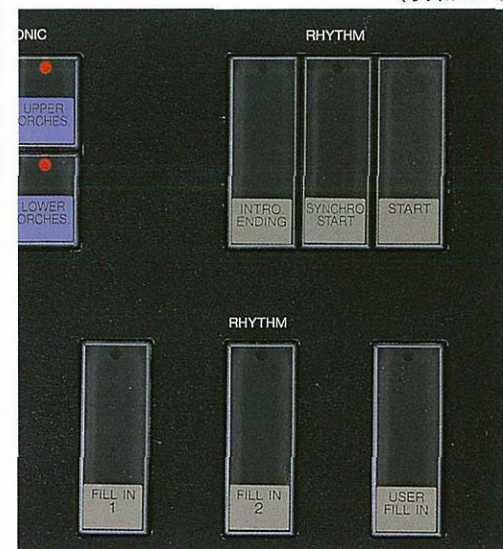
[レジストレーションメモリーとの関係]

- レジストレーションメモリー機能を使えば、数字ボタンにパネルのセッティングを記憶させることができます。基本レジストレーションを呼び出している時、メモリーの操作を行うと、1~5の数字ボタンでは、基本レジストレーションの替わりに、パネルのセッティングが記憶されます。(➡18ページ)
- パネルのセッティングを記憶させた後、再び基本レジストレーションを呼び出す操作を行うと、1~5の数字ボタンの内容は、すべて基本レジストレーションの内容に入れ替わります。
- 基本レジストレーションだけを使って演奏し、電源をOFFにした場合は、再び電源をONにする時、メモリーボタンを押さなくても基本レジストレーションが呼び出されます。

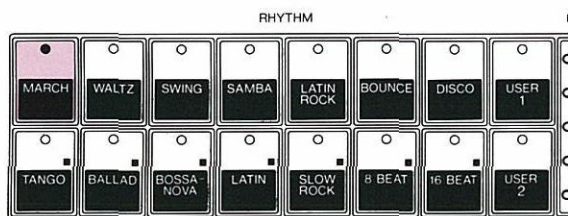
2. リズムセクション

2-(1) リズム

AWM音源によるリアルな打楽器音で、自動的にリズムがきざまれます。また、リズムに変化をつけるフィルインなどの機能も装備されています。



1 リズムパターンをひとつ選ぶ。

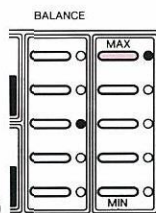


パネルに用意されているリズムパターン(プリセットパターン)は、マーチから16ビートまで14種類あります。このなかから、お望みのパターンをひとつ選んでください。

注意: マーチから16ビートのリズムパターン(プリセットパターン)をセットしたい時は、右端にある2つのユーザーボタンをOFFにしてください。ユーザーボタンがONになっていると、プリセットパターンは得られません。

2 ボリュームをセット。

HS-8は7段階、それ以外の機種は5段階にセットすることができ、一番上(MAX)で最大になり、一番下(MIN)でボリュームはゼロになります。



(図はHS-7・HS-6・HS-5)

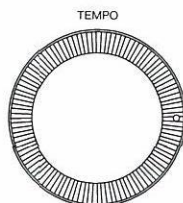
ノート: マルチメニューのボリュームファイン機能を使えば、音量をさらに細かく設定することができます。(⇒67ページ)

3 テンポをセット。

セットしたテンポは、ディスプレイの数字(メトロノームの数字に相当します)で確認することができます。

時計回りに回す: ディスプレイの数字がひとつずつ増え、テンポが速くなります。(最大:240)

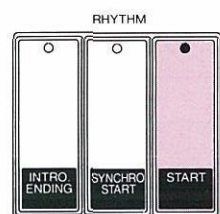
反時計回りに回す: ディスプレイの数字がひとつずつ減り、テンポが遅くなります。(最小:40)



TEMPO/(DATA)



BAR/BEAT



4 リズムをスタート。

スタート: このスイッチを押すと、リズムがスタートし、もう一度押すと、ストップします。リズムがスタートしてストップするまでの間、ディスプレイには、スタートしてから的小節数(最大255)と小節内の拍数が表示されます。

シンクロスタート: スタートの代わりに、このスイッチを押すと、リズムはすぐにはスタートせず、下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえると同時にスタートします。オートベースコードやアルペジオコードを使って伴奏を弾く場合は、このスイッチを使うと便利です。(⇒14、62ページ)

[付点ボタン]

タンゴから16ビートまでの7つの付点ボタン(四角い点の付いているボタン)には、マルチメニューに用意されているリズムメニューのパターンを移すことができます。(⇒32ページ)

[ユーザーパターン]

ユーザー1またはユーザー2のボタンをONにしている時は、マルチメニューのR.P.P.(リズムパターンプログラマー)機能によって作成したリズムパターンが得られます。(⇒38ページ)

[バランス]

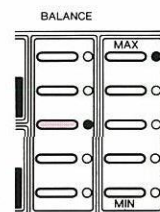
リズムパターンを構成している打楽器音の音量バランスを設定することができます。(HS-4を除く)

上側にセット: シンバル系の音量が大きくなる。

一番上にセットするとドラム系の音は出なくなる。

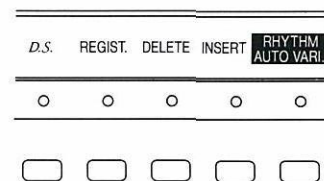
下側にセット: ドラム系の音量が大きくなる。

一番下にセットするとシンバル系の音は出なくなる。



(図はHS-7・HS-6・HS-5)

[リズムオートバリエーション]



マルチメニューのC.S.P./R.S.P.の面にあるリズムオートバリエーションの機能を使えば、プリセットのリズムパターンが自動的に変化ようになります。(⇒48ページ)

OFF: 通常のパターン(2小節単位で繰り返すパターン)が得られます。

ON: 4小節目と8小節目が自動的に変化するパターンが得られます。

[テンポランプ]



リズムをスタートさせている時: セットしたテンポに従い、4分音符の単位で、ランプの点灯が左から右に走行します。一番左の緑のランプが点灯した時が、リズムの小節の1拍目です。

シンクロスタートをONにして、リズムをまだスタートさせていない間: 一番左のランプが4分音符の単位で点滅しますから、セットしたテンポを目で確認することができます。

[テンポのリアルタイムコントロール(HS-8)]

HS-8では、ピッチホイールによってテンポをリアルタイムにコントロールすることができます。また、オプションのセカンドエクスプレッションペダルでも、同様のコントロールができます。(⇒59ページ)

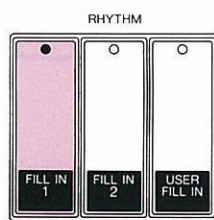
フィルイン

1 リズムをスタートさせる。

リズムのパターン、ボリューム、テンポなどをセットして、リズムをスタートさせてください。

2 フィルイン1またはフィルイン2のスイッチを押す。

フレーズの切れ目などで、フィルインスイッチ (1または2) を押してください。スイッチを押すと、リズムパターンがフィルインのパターンに切り替わります。フィルインは、その小節の終わりまで続き、次の小節からは元のリズムパターンに戻ります。



(図はHS-8)

ノート: フィルインのプリセットパターンは、各リズムパターンに対してフィルイン1とフィルイン2の2種類があり、それぞれ各リズムパターンにふさわしいパターンが得られるようになっています。

イントロ/エンディング

1 リズムをスタートさせる前に、イントロ/エンディングのスイッチをONにする。

リズムのパターン、ボリューム、テンポなどをセットし、イントロ/エンディングのスイッチをONにしてください。



2 リズムをスタートさせる。

スタートスイッチを押すと、1小節のイントロパターンが発音し、その後リズムがスタートします。イントロパターンも、各リズムパターンにふさわしいパターンが得られるようになっています。



3 曲の終わりから2小節目で、イントロ/エンディングのスイッチを押す。

リズムをスタートさせた後、イントロ/エンディングのスイッチを押すと、リズムパターンがエンディングパターンに切り替わります。エンディングパターンは2小節の長さですから、曲の最後から2小節目の先頭でスイッチを押してください。

ノート: エンディングパターンが終わると、リズムは自動的にストップします。



[ユーザーフィルイン]

このスイッチを押した時は、マルチメニューのR.P.P.(リズムパターンプログラマー)によって作成したフィルインパターンが得られます。(➡38ページ)

[ブランクのフィルイン]

ユーザーフィルインに自分で作成したフィルインパターンを登録する前は、ユーザーフィルインには何もパターンがプログラムされていません。この状態で、ユーザーフィルインのスイッチをリズム走行中に押せば、リズム音が発音しないブランクのフィルインが得られます。なお、ユーザーフィルインにパターンを登録した後でも、音符を何も入力せずに登録しなおせば、ブランクに戻すことができます。

[フィルインを2小節以上続けたい場合]

フィルインは、スイッチを押してすぐに離すと最長1小節発音しますが、スイッチを押し続けられれば、2小節以上にわたってフィルインパターンを発音させることができます。なお、ユーザーフィルインは2小節の長さを登録することができます。それをフルに発音させたい時は、スイッチを押し続けてください。(➡34ページ)

[フィルインをイントロの替わりとして使うには]

リズムをスタートさせる前に、フィルインのスイッチを押してONにしておけば、フィルインパターンをイントロの替わりとして使うことができます。

[伴奏パターンとの関連について]

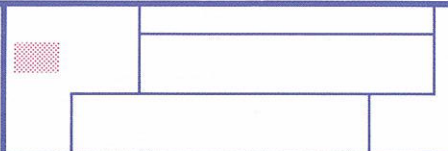
フィルインおよびエンディングのパターンが発音している間は、アルペジオコードのパターンとオートベースのベースパターンも連動して一緒に変化するようにになっています。(➡14・62ページ)

[フットスイッチによるリズムコントロール]

リズムのストップ/スタート、エンディング、フィルインなどを、エクスペッションペダルに左に付いているフットスイッチの操作によってコントロールすることができます。フットスイッチでどの機能をコントロールするかは、マルチメニューで選択できるようになっています。(➡58ページ)

2-(2) アルペジオコード

下鍵盤で弾いた音にもとづいて、リズムに連動した伴奏パターンが自動的に得られます。

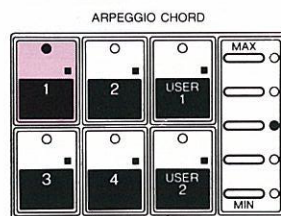


1 パターンをひとつ選ぶ。

アルペジオコードのプリセットパターンを選ぶボタンは、1・2・3・4と4つあります。このなかから、伴奏パターンをひとつ選んでください。

1・2:主に、リズムに連動してきざまれるリズムコードパターンが得られます。

3・4:リズムに連動したアルペジオパターン(分散和音)が得られます。

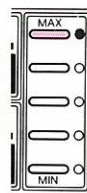


(図はHS-8以外の機種)

注意:アルペジオコードのプリセットパターンをセットしたい時は、右端にある2つのユーザーボタンをOFFにしてください。ユーザーボタンがONになっていると、プリセットパターンは得られません。

2 ボリュームをセット。

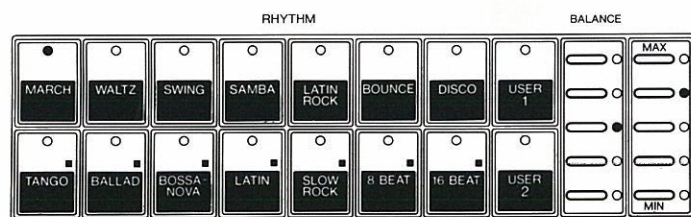
HS-8は7段階、それ以外の機種は5段階にセットすることができます。



ノート:アルペジオコードの音をだしたくない場合は、ボリュームをMINにセットしてください。

ノート:マルチメニューのボリュームファイン機能を使えば、音量をさらに細かく設定することができます。(⇒67ページ)

3 リズムをセット。

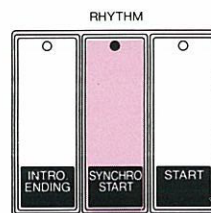


リズムのパターン、ボリューム、テンポなどをセットしてください。

注意:アルペジオコードはリズムに連動して機能しますから、必ず、リズムと一緒にセットしてください。

4 シンクロスタートのスイッチをONにする。

シンクロスタートの代わりに、スタートスイッチを押してリズムをスタートさせてもかまいません。



5 下鍵盤でコードを押さえてみましょう。

下鍵盤を押さえ続けるだけで、リズムに連動した伴奏パターンが自動的に得られます。アルペジオコードのパターンやリズムパターンを切り替えて、いろいろな伴奏パターンを聴きくらべてみましょう。



[アルペジオコードのパターンと音色]

アルペジオコードの1・2・3・4では、各リズムパターンにふさわしいパターンが得られるようになっています。また、アルペジオコードの音色も、各リズムパターンにふさわしい音色が、それぞれプリセットされています。

[ボイスメニューの音色が移せます]

アルペジオコードの1・2・3・4のボタン、およびユーザーボタンには、プリセットされている音色の替わりに、マルチメニューに用意されているボイスメニューの音色を移して使うことができます。(⇒23ページ)

[ボイスエディット機能]

プリセットされているアルペジオコードの音色は、マルチメニューのボイスエディット機能によって、音色の感じを変えることができます。(⇒25ページ)

[ユーザーパターン]

ユーザー1またはユーザー2のボタンをONにしている時は、マルチメニューのR.C.P.(リズムコードプログラマー)によって作成した伴奏パターンが得られます。(⇒38ページ)

[オートベースコードのメモリーをONにすると]

マルチメニューのA.B.C.セクションにあるローメモリーをONにして、パネルのA.B.C.メモリーボタンをONにすれば、下鍵盤から指を離した後もアルペジオコードの音が発音し続けます。(⇒62ページ)

[オートベースコードのベースパターンとの連動]

アルペジオコードのプリセットパターンを切り替えると、オートベースコードのベースパターンも連動して切り替わるようになっています。(⇒62ページ)

[フィルイン・エンディングによるパターン変化]

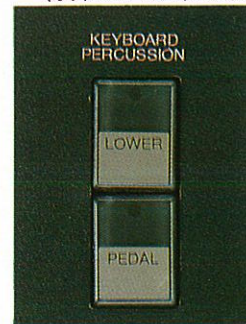
リズムのフィルインまたはエンディングが発音している間は、アルペジオコードのパターンも変化します。(⇒13ページ)

[コードのタイプによるパターン変化]

下鍵盤で弾いた和音のタイプによっても、アルペジオコードのパターンは変化します。

[リズムのユーザーパターンを使っている時のアルペジオコードパターン]

リズムのユーザーパターンには、プリセットのアルペジオコードパターンは連動しないようになっています。プリセットのアルペジオコードは、その時点灯になっているプリセットのリズムパターンに対応したパターンになります。

[illegible]

1 キーボードパーカッションのボタンをONにする。

ロー: このボタンをONにすると、下鍵盤で打楽器音を発音させることができます。

ペダル:このボタンをONにすると、ペダル鍵盤で打楽器音を発音させることができます。

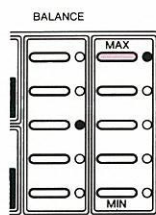


「他の音色とのアンサンブル」

下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセットすれば、鍵盤を押さえることで、キーボードパーカッションの音と一緒に発音させることができます。また、キーボードパーカッションの音だけを発音させたい場合は、各音色をOFFにしてください。

2 ボリュームをセット。

キーボードパーカッションの音量は、リズムセクションのボリュームでコントロールすることができます。お好みの音量にセットしてください。



(図はHS-8以外の機種)

「タッチコントロール」

下鍵盤(HS-8ではペダル鍵盤も)を押さえる時のイニシャルタッチによって、打楽器音の音量を微妙にコントロールすることができます。このタッチコントロールは、マルチメニューにあるタッチトーンボタンのON/OFFとは関係なく機能します。

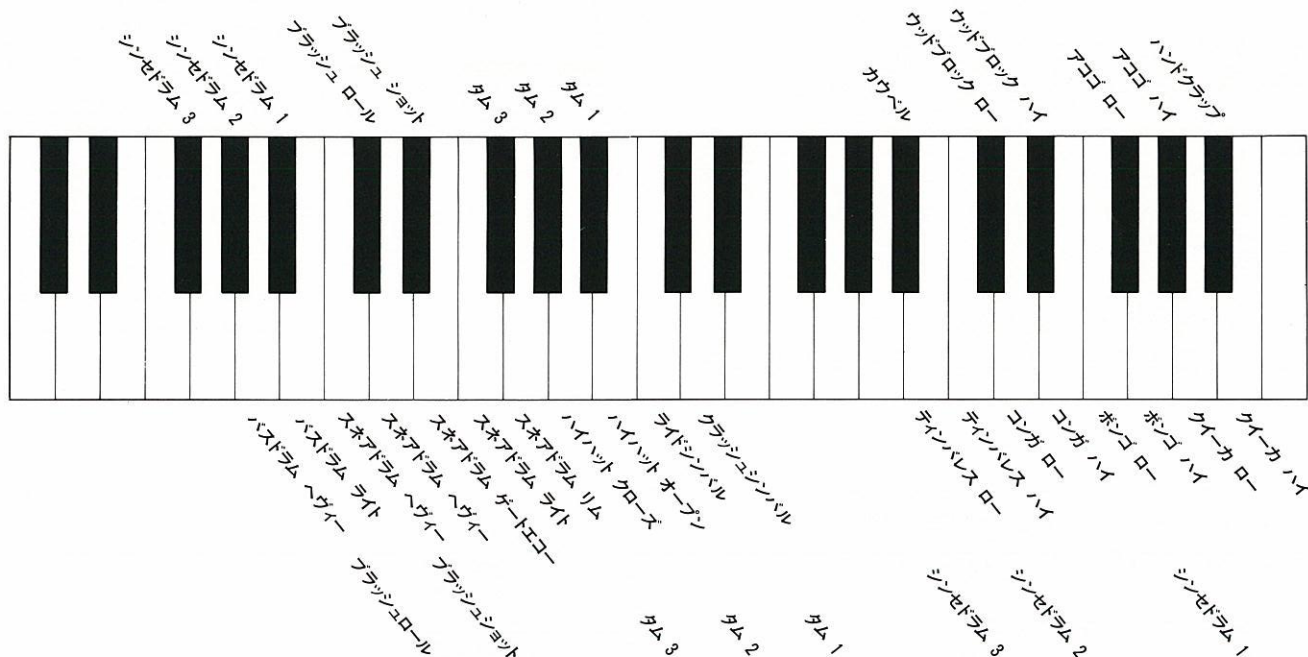
「バランスコントロールによる音量変化」

リズムセクションのバランスによって、各打楽器の音量バランスを設定することもできます。(⇒12ページ)

3 下鍵盤、ペダル鍵盤を押さえる。

どの鍵盤に、どの打楽器が対応しているかは、下鍵盤の下に表示されている打楽器の図を見てください。

「下鍵盤と打楽器の対応」



「ペダル鍵盤と打楽器の対応」



3. 効果

3-(1) トレモロ・シンフォニック

上・下鍵盤のオーケストラルボイス、コンビネーションボイスに、広がりをもたせることができます。

HS-8・HS-7・HS-6

1 上・下鍵盤のオーケストラルボイス、コンビネーションボイスをセット。

それぞれの音色群で音色を選び、ボリュームをセットしてください。また、アンサンブルのボタンもONにしてください。(⇒4～7ページ)

2 アッパーコンビ、ロワーコンビのボタンをONにし、コーラスまたはトレモロのボタンをONにする。

アッパーコンビ：上鍵盤のコンビネーションボイスに効果をかけるスイッチ。

ロワーコンビ：下鍵盤のコンビネーションボイスに効果をかけるスイッチ。(HS-6

はロワーオーケス：下鍵盤のオーケストラルボイスに効果をかけるスイッチ)

コーラス：音がゆっくりと回転しているような効果が得られます。

トレモロ：音が速く回転しているような効果が得られます。



(図はHS-8・HS-7)

3 アッパーオーケス、ロワーオーケスのボタンをONにし、セレステまたはシンフォニックのボタンをONにする。

アッパーオーケス：上鍵盤のオーケストラルボイスに効果をかけるスイッチ。

ロワーオーケス：下鍵盤のオーケストラルボイスに効果をかけるスイッチ。

セレステ：音がゆっくりと広がっていくような効果が得られます。

シンフォニック：複数の楽器で演奏しているような効果が得られます。



ノート：セレステとシンフォニックは、常にどちらかがONになっています。

HS-5・HS-4

1 上・下鍵盤のオーケストラルボイスをセット。

それぞれの音色群で音色を選び、ボリュームをセットしてください。また、HS-5ではアンサンブルのボタンもONにしてください。(⇒8～10ページ)

2 アッパーオーケス、ロワーオーケスのボタンをONにし、効果をひとつ選ぶ。

アッパーオーケス：上鍵盤のオーケストラルボイスに効果をかけるスイッチ。

ロワーオーケス：下鍵盤のオーケストラルボイスに効果をかけるスイッチ。

コーラス：音がゆっくりと回転しているような効果が得られます。

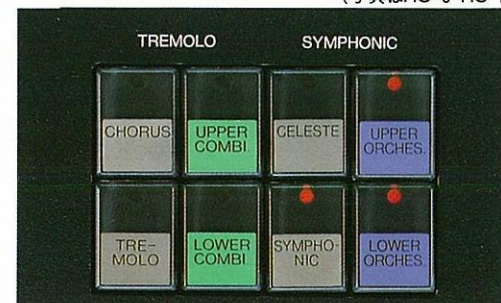
トレモロ：音が速く回転しているような効果が得られます。

セレステ：音がゆっくりと広がっていくような効果が得られます。

シンフォニック：複数の楽器で演奏しているような効果が得られます。



(写真はHS-8・HS-7)



(写真はHS-5・HS-4)

[トレモロスピード]

トレモロ効果を選んでいる時は、マルチメニューのトレモロスピード機能によって、音の回転速度を設定することができます。(⇒56ページ)

[回転感のないトレモロ効果]

次のようにセットすることで、回転感がなく広がり感だけがあるトレモロ効果が得られます。

HS-8・HS-7・HS-6：コーラスとトレモロのボタンを両方ともOFFにする。

HS-5・HS-4：コーラス、トレモロ、セレステ、シンフォニックのボタンをすべてOFFにする。

[トレモロスピードの減衰]

トレモロ効果をかけている音色を発音させながら、トレモロボタンをOFFにすると、回転速度が徐々に遅くなり、やがて回転感がなくなります。

[トレモロ・シンフォニックの使用にあたって]

- スtringsなどの音色を選んだ時は、自動的にシンフォニックがONになります。(HS-8・HS-7のみ)
- HS-6では、下鍵盤のオーケストラルボイスにトレモロ効果(コーラス、トレモロ)をかけるか、シンフォニック効果(セレステ、シンフォニック)をかけるかを選択するようになっています。
- トレモロ・シンフォニック効果は、オーケストラルボイスまたはコンビネーションボイスの付点ボタンに移したボイスメニューの音色にもかかります。

3-(2) リバーブ

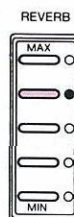
音に残響がつき、大きなホールで演奏しているような効果が得られます。



リバーブで、残響の長さをセット。

残響の長さは、HS-8では7段階、それ以外の機種では5段階にセットすることができます。

一番上 (MAX) で、残響は最長になり、一番下 (MIN) にセットするとリバーブ効果はかからなくなります。



(図はHS-8以外の機種)

[リバーブ効果がかかる範囲]

リバーブ効果は、各音色群とアルペジオコードの全音色に対してかかります。リズムとキーボードパーカッションの音にはかかりません。

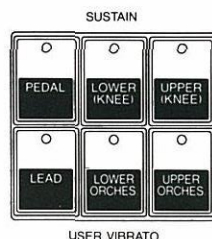
[HS-8のリバーブ]

HS-8のリバーブ効果は、デジタル方式を採用しています。

その他の効果・機能

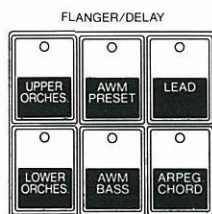
サステイン

各鍵盤の音の余韻をつける効果です。パネルの3つのボタンがスイッチになっていて、余韻の長さはマルチメニューで設定します。(⇒56ページ)



ユーザービブラート

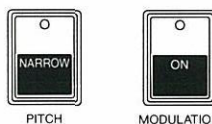
リードボイス、上・下鍵盤のオーケストラルボイスに、自分でセットしたビブラートをかけることができます。ビブラートのかかり具合は、マルチメニューで設定します。(⇒55ページ)



(図はHS-8)

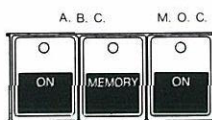
フランジャー/ディレイ (HS-4を除く)

フランジャー効果またはディレイ効果を、どの音色群にかけるかを選ぶボタンです。効果の選択と、パラメーターの設定はマルチメニューで行います。(⇒65ページ)



ピッチ/モジュレーション (HS-8)

リアルタイム操作でコントロールする2つのホイールのスイッチです。ホイールでどの効果をコントロールするかは、マルチメニューで選択します。(⇒59・60ページ)

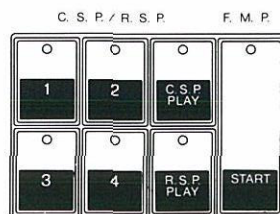


A.B.C./M.O.C.

A.B.C. (オートベースコード) M.O.C. (メロディーオンコード) のスイッチです。それぞれのモードは、マルチメニューで選びます。(⇒62~64ページ)

C.S.P./R.S.P. F.M.P.

C.S.P./R.S.P. (コードシーケンスプログラマー/リズムシーケンスプログラマー)、およびF.M.P. (フルミュージックプログラマー) の再生時に使うボタンです。それぞれのレコードはマルチメニューで行います。(⇒42~50ページ)



[マルチメニューのみでセットする効果・コントロール]

タッチトーン: 鍵盤のタッチによって、音量と音色を微妙にコントロールすることができます。(⇒57ページ)

タッチビブラート: 上・下鍵盤のタッチによって、ビブラートのかかり具合をコントロールすることができます。(⇒57ページ)

グライド: フットスイッチの操作によって、音程を一時的に半音下げることができます。(⇒58ページ)

リードスライド: リードボイスにポルタメント効果を加えることができます。(⇒58ページ)

トランスポジション: エレクトーン全体のキーを変えることができます。(⇒61ページ)

ピッチコントロール: エレクトーン全体のピッチを変えることができます。(⇒61ページ)

4. メモリーセクション

4-(1) レジストレーションメモリー

各種のレジストレーション(音色などのセッティング)を記憶させることができ、記憶させたレジストレーションはボタンひとつで再現させることができます。

HS-8

HS-7・HS-6
HS-5・HS-4



(写真はHS-8以外の機種)

レジストレーションをメモリーする操作

1 記憶させるレジストレーションをパネルでセット。

各鍵盤の音色、リズムのパターンとテンポ、各種効果など、パネルのほとんどのセッティングを記憶させることができます。

[記憶させることができるパネルの機能]

- | | |
|--|-------------------------------------|
| ● 音色 (音色の選択とボリュームのセット) | ● トレモロ・シンフォニック |
| ● アンサンブルセクション (HS-8・HS-7・HS-6・HS-5) | ● リバース |
| ● リードボイスのアッパーとロー (HS-4) | ● サステイン |
| ● マニュアルバランス | ● ユーザービブラート |
| ● リズムセクション
(パターンの選択とボリューム、バランスのセット) | ● フランジャー/ディレイ (HS-8・HS-7・HS-6・HS-5) |
| ● リズムのテンポ | ● ピッチ・モジュレーション (HS-8) |
| ● アルペジオコード (パターンの選択とボリュームのセット) | ● オートベースコード |
| ● キーボードパーカッション | ● メロディーオンコード |

2 M.(メモリー) ボタンを押しながら、数字のボタンをひとつ押す。

[HS-8]



[HS-7・HS-6・HS-5・HS-4]



押した数字のボタンのランプが点滅し、パネルでセットしたレジストレーションが記憶されたことを示します。ほかの数字のボタンにも、同様の操作で、いろいろなレジストレーションを記憶させてみましょう。

HS-8: 上鍵盤と下鍵盤の間に、1~16の数字のボタンがあり、全部で16種類のレジストレーションを記憶させることができます。

HS-7・HS-6・HS-5・HS-4: テンポディスプレイの下に、1~8の数字のボタンがあり、全部で8種類のレジストレーションを記憶させることができます。

[記憶させることができるマルチメニューの機能]

レジストレーションメモリーには、パネルのセッティングのほかに、マルチメニューで設定した各種データも記憶させることができます。記憶されるデータは次のとおりです。

- 各音色群とアルペジオコードの付点ボタンに移しているボイスメニューのデータ (⇒23ページ)
- リズムの付点ボタンに移しているリズムメニューのデータ (⇒32ページ)
- ユーザービブラートのデータ (⇒55ページ)
- サステインのデータ (⇒56ページ)
- トレモロスピードのデータ (⇒56ページ)
- タッチビブラートのON/OFFデータ (⇒57ページ)
- タッチトーンのON/OFFデータ (⇒57ページ)
- フットスイッチの選択データ (⇒58ページ)
- リードスライドのON/OFFデータ (⇒58ページ)
- ピッチホイールの選択データ [HS-8] (⇒59ページ)
- モジュレーションホイールの選択データ [HS-8] (⇒60ページ)
- オートベースコードのモード選択データとメモリーのON/OFFデータ (⇒62ページ)
- メロディーオンコードのモード選択データとニューコントロールのON/OFFデータ (⇒64ページ)
- フランジャー/ディレイの選択データとパラメーターデータ [HS-8・HS-7・HS-6・HS-5] (⇒65ページ)
- ボリュームファインのデータ (⇒67ページ)

[メモリーの操作とランプの点灯について]

レジストレーションメモリーの数字ボタンのランプは、常にどれかひとつが点灯していますが、レジストレーションを記憶させる操作は、ランプの点灯・消灯に関係なく行うことができます。

点灯している数字ボタンにメモリーの操作を行った場合: 点灯していた数字ボタンに新しいレジストレーションが記憶されます。ランプは点滅した後、点灯に戻ります。

消灯している数字ボタンにメモリーの操作を行った場合: メモリーの操作を行った数字ボタンに新しいレジストレーションが記憶され、点灯していた数字ボタンの内容は変わりません。メモリーの操作を行ったボタンのランプは、いったん点滅してから、消灯します。

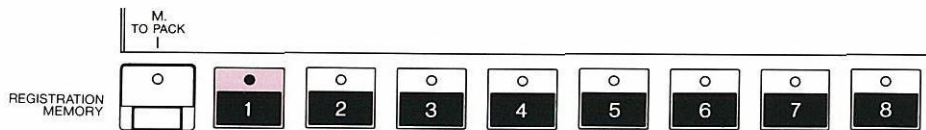
メモリーしたレジストレーションを再現する操作

1 数字のボタンをひとつ押す。

[HS-8]



[HS-7・HS-6・HS-5・HS-4]



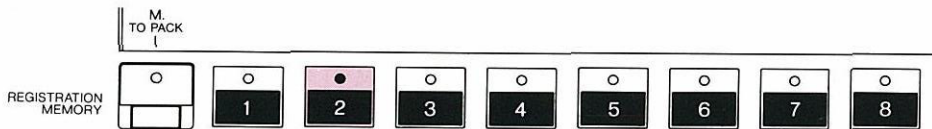
押したボタンのランプが点灯し、そのボタンに記憶されているレジストレーションがパネルに再現されます。

2 別の数字のボタンを押す。

[HS-8]



[HS-7・HS-6・HS-5・HS-4]



別の数字のボタンを押すたびに、パネルのセッティングが変わります。ボタンひとつでレジストレーションが変わりますから、演奏中でも音色やリズムを簡単に変更することができます。

ノート: HS-8では、数字のボタンを手で押す代わりに、フットスイッチ(右)を押すことで、レジストレーションを切り替えることができます。(➡58ページ)

ユーザーパターンのメモリー

レジストレーションメモリーの数字ボタンは、レジストレーションのデータを記憶させる時のほかにも、リズムのユーザーパターンなどを登録する時にも使用します。

リズムのユーザーパターン: ユーザー1とユーザー2のそれぞれに対して、HS-8では16種類、それ以外の機種では8種類のパターンが登録できます。(➡38ページ)

フィルインのユーザーパターン: HS-8では16種類、それ以外の機種では8種類のパターンが登録できます。(➡38ページ)

アルペジオコードのユーザーパターン: ユーザー1とユーザー2のそれぞれに対して、HS-8では16種類、それ以外の機種では8種類のパターンが登録できます。(➡41ページ)

[再現したレジストレーションの変更]

数字ボタンを押してレジストレーションを再現させた後、パネルのセッティングを変えれば、レジストレーションを部分的に変更することができます。この場合、パネルのセッティングを変えても、数字ボタンにメモリーされている内容は変わりません。

[メモリーのボタンの働きについて]

赤いM.(メモリー)ボタンは、レジストレーションを記憶させる時のほかにも、RAMパックなどにエレクトーンのデータを移す時にも使用します。(➡20ページ)

[メモリーしたデータの保存]

レジストレーションメモリーに記憶させたデータはRAMパックまたはカセットテープに移して保存しておくことができます。(➡20ページ)

[メモリーしたデータの保護]

レジストレーションメモリーのデータは、電源を切っても、内蔵の電池によってバックアップされます(バックアップ期間は最低1週間)。電源をOFFにしたままバックアップ期間を過ぎた場合は、レジストレーションメモリーの内容は、レジストレーションメニューの内容に置き替わります。

[電源OFF時のセッティングのバックアップ]

レジストレーションメモリーのバックアップとは別に、電源をOFFにした時点でセットされているレジストレーションはバックアップされます。電源をONにすると、バックアップされているレジストレーションが再現されます。

4-(2) パック

エレクトーンに記憶させた各種データを、RAMパックあるいはカセットテープに移すことができ、移したデータはいつでもエレクトーンに戻すことができます。

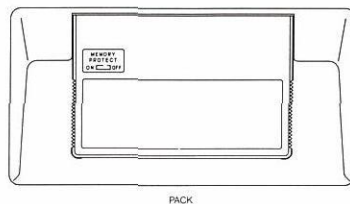
エレクトーンのデータ⇒RAMパック (トゥーパックの操作)

1 エレクトーンに各種データを記憶させる。

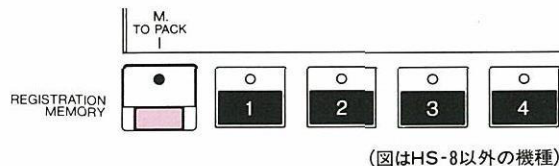
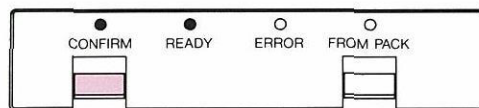
RAMパックには、レジストレーションメモリーやC.S.P.などに記憶させたデータを一括して移すことができます。(右記の“RAMパックに移せるデータ”参照)

2 RAMパックをエレクトーンに差し込む。

ラベルが貼られている面を上にして、しっかりと差し込んでください。緑色のレディのランプが点灯になり、情報をメモリーできる状態になったことを示します。



3 コンファームボタンを押しながら、レジストレーションメモリーセクションのトゥーパックボタン (M.) を押す。



(図はHS-8以外の機種)

HS-8: ガイドディスプレイにデータ書き込み開始のメッセージ (Memory Pack Write Start) が出て、数秒後にデータ書き込み完了のメッセージ (Memory Pack Write Completed) に変わり、エレクトーンのデータがRAMパックに移ったことを示します。この操作を行った後は、RAMパックを抜き取ってもかまいません。

HS-7・HS-6・HS-5・HS-4: トゥーパックのランプが点灯 ⇒ 点滅 ⇒ 消灯になり、エレクトーンのデータがRAMパックに移ったことを示します。この操作を行った後は、RAMパックを抜き取ってもかまいません。

注意: トゥーパックの操作を行うと、それまでRAMパックに記憶されていたデータが消去され、エレクトーンのデータに置き替わります。

RAMパックのデータ⇒エレクトーン (フロムパックの操作)

1 データを移しておいたRAMパックをエレクトーンに差し込む。

緑色のレディのランプが点灯になり、フロムパックの操作が行える状態になったことを示します。

2 コンファームボタンを押しながら、フロムパックボタンを押す。

フロムパックのランプが点灯 ⇒ 点滅 ⇒ 消灯になり、RAMパックのデータがエレクトーンに移ったことを示します。この操作を行った後は、RAMパックを抜き取ってもかまいません。

注意: 次のような時には、トゥーパックとフロムパックの操作を行うことができません。リズムをスタートさせている時、C.S.P./R.S.P.の再生またはエディットを行っている時、MDR-2Pを動作させている時。



[RAMパックに移せるデータ]

トゥーパックの操作によってRAMパックに移るデータは次のとおりです。

- レジストレーションメモリーの全データ
- ユーザーボイスの全データ (⇒30ページ)
- リズム、フィルイン、アルペジオコードのユーザーパターンの全データ (⇒38・41ページ)
- C.S.P./R.S.P.の全データ (⇒43・47ページ)
- トランスポジションのデータ (⇒61ページ)

[部分コピー]

RAMパックには、上記のデータが一括してメモリーされますが、以下のデータについては、部分的にデータをRAMパックに移したり、RAMパックからエレクトーンにデータを戻したりすることができます。

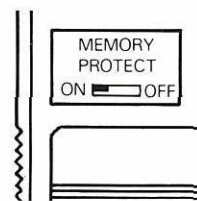
- ユーザーボイスの全データ (⇒30ページ)
- リズム、フィルイン、アルペジオコードのユーザーパターンの全データ (⇒38・41ページ)

[使用できるRAMパック]

8KバイトのRAMパックRP-3がご使用になれます。また、32KバイトのRAMパックRP-5もご使用になれます。(⇒54ページ)

[メモリープロテクト]

RAMパックに移したデータを消去したくない場合は、RAMパックに付いているメモリープロテクトスイッチをONにセットしてください。誤ってトゥーパックの操作を行っても、新たなデータはメモリーされず、RAMパックのデータが保護されます。(フロムパックの操作は行えます。) 再度、RAMパックに新たなデータをメモリーしたい場合は、メモリープロテクトスイッチをOFFにセットしてください。



[エラーランプが点滅した場合]

赤いエラーランプは、次のような場合に点滅し、アラーム音が3回鳴ります。操作方法などを間違えていないかどうかを確認してください。

- RAMパック(またはROMパック)の差し込み方が不完全な場合。
- 未使用のRAMパックを初めてエレクトーンに差し込んだ場合。(この場合、コンファームボタンを押せば、トゥーパックの操作が行えるようになります。)
- RAMパックのメモリープロテクトスイッチがONになっている時に、トゥーパックの操作を行った場合。
- F.M.P.のデータがRAMパックのメモリー容量をオーバーしている場合。(⇒54ページ)

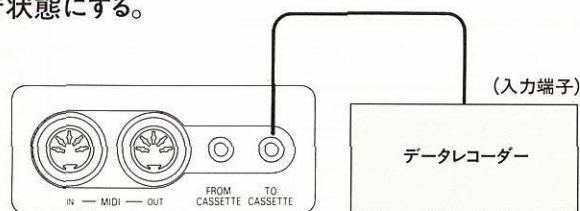
エレクトーンのデータ⇒カセットテープ (トゥーカセットの操作)

1 エレクトーンに各種データを記憶させる。

カセットテープには、レジストレーションメモリーやC.S.P.などに記憶させたデータを一括して移すことができます。(右記の「カセットテープに移せるデータ」参照)

2 データレコーダーをエレクトーンに接続し、録音状態にする。

まず、ミニプラグの接続コードを使って、エレクトーンの下面にあるトゥーカセット端子と、データレコーダーの入力端子を接続します。次に、データレコーダーにカセットテープをセットし、録音状態にしてください。



ノート: データレコーダーのカウンターを見て、記録を開始した時と、終了した時の数字をメモしておきましょう。

注意: データレコーダーの代わりに、一般のオーディオ用カセットレコーダーも使用できますが、なるべくデータ記録専用のデータレコーダーをお使いください。

3 コンファームボタンを押しながら、レジストレーションメモリーセクションのトゥーパックボタン(M.)を押す。



(図はHS-8以外の機種)

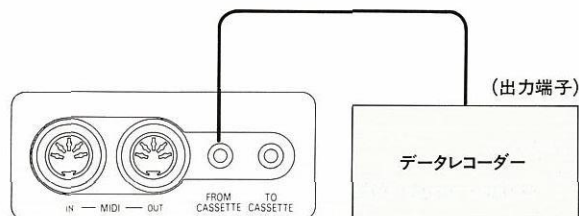
データの記録が開始され、記録している間はトゥーパックのランプが点灯し続けます。データの記録は最長約4分を要し、記録が終了すると、トゥーパックのランプが点滅してから消灯します。ランプが消えたことを確認してから、データレコーダーをストップさせてください。

注意: データの記録中は、エレクトーンの実操作や演奏は行えません。次に説明するデータの読み取り中も同様です。

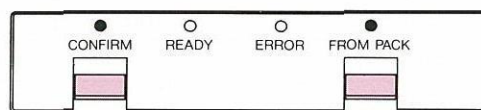
カセットテープのデータ⇒エレクトーン (フロムカセットの操作)

1 データレコーダーをエレクトーンに接続する。

エレクトーンのカセット端子とデータレコーダーの出力端子を接続してください。カセットテープは、記録を開始した位置まで巻き戻しておきます。また、データレコーダーのボリュームは中央よりやや高めにセットしてください。



2 コンファームボタンを押しながら、フロムパックボタンを押す。



3 データレコーダーを再生状態にする。

データの読み取りが開始され、読み取りが行われている間はフロムパックのランプが点灯し続けます。データの読み取りは最長約4分を要し、読み取りが終了するとフロムパックのランプが点滅してから消灯します。ランプが消えたことを確認してから、データレコーダーをストップさせてください。

[カセットテープに移せるデータ]

- レジストレーションメモリーの全データ
- ユーザーボイスの全データ(⇒30ページ)
- リズム、フィルイン、アルペジオコードのユーザーパターンの全データ(⇒38・41ページ)
- C.S.P./R.S.P.の全データ(⇒43・47ページ)
- F.M.P.の全データ(⇒54ページ)
- トランスポジションのデータ(⇒61ページ)

[カセットテープにデータが移らない場合は]

カセットテープのデータがエレクトーンに正常に読み取られなかった場合は、アラーム音が3回鳴り、フロムパックのランプが点灯したままになります。また、エレクトーンがカセットテープに正常に記録されたかどうかは、トゥーカセットの操作の後フロムカセットの操作を行ってみることで確認できます。もし、情報が移らなかった場合は、次のチェック項目を確認し、操作をやり直してください。

- 接続コードがエレクトーンとレコーダーにしっかりと差し込まれていますか?
- 接続する端子や操作手順は間違えていませんか?
接続コードをはずし、情報を記録した部分を再生してみてください。信号音が出た場合は、情報が記録されています。
- レコーダーの再生ボリュームは適切ですか?
10段階目盛りのボリュームの場合、6〜8ぐらいにセットしてください。ボリュームが小さすぎたり、大きすぎると情報が読み取られません。
- レコーダーのヘッドが汚れていませんか?
- カセットテープは適切ですか?
データ記録専用テープ、またはノーマル・ローノイズタイプのオーディオテープ(30分または40分テープ)をお使いください。
- カセットテープに折り目やシワなどはありませんか?
カセットテープは、なるべく新品のものをお使いください。また、テープの先端を使う場合は、少し空送りしてから記録してください。
- レコーダーは適切ですか?
一般のオーディオカセットレコーダーは、その特性によって記録しにくいものがあります。なるべく、データ記録専用のデータレコーダーをお使いください。

[データの記録・読み取り時の注意]

- トゥーカセットまたはフロムカセットの操作開始時に、鍵盤を押さえたり、リズムをスタートさせないでください。
- フロムカセットの操作を行うと、それまでエレクトーンに記憶されていた各種情報がすべて消え、カセットテープのデータと入れ替わってしまいます。